

AICADとアクションプランを策定

ICCAEはAICAD（アフリカ人づくり拠点）と2002年3月、学術交流協定を結び、これまで長・短期の専門家（派遣）推薦や、客員研究員の招聘、情報交換など交流活動を推進してきました。今回、これらの効果を相互評価し、交流のレベルアップを図るため、竹谷センター長が2005年3月、AICADを訪問し、A. B. Gidamis 所長を始めスタッフと意見交換を行い、次のような理解を共有しました。

①貧困削減を目標とするAICADにとって、貧困・その原因・解決のために研究プロジェクトが必須である。

②大学研究者は、AICADへの研究プロジェクト申請に際し、貧困削減との関連を明確にし、研究成果もその視点から評価される。その意味で、大学研究者は研究方法を切り替える必要がある。

③AICADは、研究開発成果を普及するため、農業省と協力し、普及スタッフや農場経営リーダー等の研修を行い、その効果も評価している。

④AICADは、実施している事業相互間の相乗効果を期待している。

⑤アジア開発の経験は、Asia-Africa 南々協力プロジェクトを通して、アフリカの人々が自ら考える方法を学び取る上で役立つ。

さらに、少なくとも2ヶ国が近くAICADに加わる見通しも提示されました。これらを踏まえ、以下のアクションプランを策定、覚書を交換しました。

①AICAD対象地域の研究プロジェクトやニーズに関心を持つアフリカと日本の研究者に関する情報交換を行う。

②ICCAE は、AICADと密接に共同研究している研究者を客員教授・研究員として招聘し、研究を推進する。

③ICCAEは、AICADと共同で、ネリカ(NERICA)米普及のための社会経済条件について調査し、併せてネリカ米生産の小農への影響について研究する。

このアクションプランを持って、竹谷はAICADの担当省であるケニア文部省のThuku高等教育局次長を訪れ、貧困削減に有効な対策解明などAICADに大学を参画させる目的を伺うとともに、ICCAEの対応について説明しました。またJICAケニア事務所、同東南部アフリカ地域支援事務所を訪れ、JICA事業の中での位置づけについて意見交換し、連携協力を確認しました。



AICAD執行部とのアクションプランの協議



GIS研修生、インストラクターと北川教授

JICA-GIS研修コース、第2フェーズ5年更新

ICCAEが、2000年から毎年、国際協力機構（JICA）中部国際センターと協力して実施してきた集団研修コース「GIS（地理情報システム）による農業資源・農業生産物の管理」が、2005年よりさらに5年間実施することが決まりました。本研修は、開発途上国の研究者・技術者がインターネットから無料でダウンロードし、自由に使える利点のあるGISフリーソフト「GRASS」の利用方法を研修させることが特徴で、帰国後に活用・普及しやすいと研修生に大変好評でした。これまでの5年間で、21カ国28名が研修を終え、今後もさらに広めていきます。